

平成 28 年度

病虫害発生予察情報 第 14 号

9 月月報

北海道病虫害防除所 平成 28 年 10 月 18 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・並雨・寡照』上旬は雨の日多く多雨・寡照となるも、下旬は少雨・多照－

この期間は、上旬は低気圧や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、6日と9日には記録的な大雨となって土砂災害が発生した所もあったが、中旬以降の天気は概ね数日の周期で変化した。気温は上旬は平年より高く、下旬はかなり高く、月平均気温は高かった。降水量は上旬は平年より多かったが、下旬はかなり少なく、月降水量は平年並だった。日照時間は上旬は平年よりかなり少なかったが、下旬は多く、月間日照時間は少なかった。なお、1961年の統計開始以降、上旬のオホーツク海側の日照時間と、中旬の太平洋側の降水量は、共に最も少なかった。

上旬：1～2日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、内陸で大気の状態が不安定となって雨の降った所があった他、太平洋側では湿った気流の影響で雨の降った所があった。3～4日は気圧の谷や湿った気流の影響で広い範囲で曇り、雨の降った所もあった。5日は気圧の谷の影響により太平洋側で雨の降った所が多かったが、晴れた所もあった。6日は低気圧と前線の影響で全道的に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は稚内市開運で192.0mmなど。7日は上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し広い範囲で雨が降ったが、太平洋側などでは晴れた。日降水量は利尻町杓形で55.0mmなど。8日は低気圧や気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は知内で77.0mmなど。9日は台風第13号から変わった低気圧の影響で全道的に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は羅臼で183.5mmなど。10日は低気圧や気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側で雨が降ったが、太平洋側では晴れた。

中旬：11日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、朝晩は気圧の谷や寒気の影響で雨の降った所があった。12日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、太平洋側などでは湿った気流の影響で雨の降った所があった。13日は高気圧に覆われて日本海側北部やオホーツク海側では晴れた所が多かったが、太平洋側では湿った気流の影響で曇って雨の降った所があった。14日は気圧の谷の中となって広い範囲で曇り、雨の降った所もあった。15日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で雨の降った所が多く、局地的に大雨となったが、晴れた所も多かった。16日は高気圧の張り出しの中で日本海側南部などでは晴れたが、前線の影響で雨の降った所が多かった。17日は寒冷前線が通過し全道的に雨が降った。日降水量は赤井川で50.5mmなど。18日は高気圧に覆われて日本海側などでは晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響でオホーツク海側南部や太平洋側では雨が降った。19～20日は高気圧の張り出しの中で広い範囲で晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。

下旬：21～22日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、22日夜には気圧の谷の影響により太平洋側西部などで雨が降った。23日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降ったが、宗谷地方では晴れた。24日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。25日は高気圧の張り出しの中で広い範囲で晴れたが、太平洋側東部でははじめ湿った気流の影響で雨の降った所があった。26～27日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、27日夜には前線や気圧の谷の影響で雨の降った所があった。28日は寒冷前線が通過し雨の降った所が多かった。29日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、日本海側北部では晴れた。30日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。

気候表

	気温差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+0.9	高	88	並	89	少
日本海側 10 地点平均	+1.1	高	90	並	95	少
オホーツク海側4地点平均	0.0	並	92	並	82	少
太平洋側8地点平均	+1.2	高	83	並	85	少

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 年の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か→かなり」で表しています。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 やや多

予察田の「きらら 397」における穂いもちおよび節いもちの発生量は、岩見沢市では平年に比べ少なかったが、比布町および北斗市では平年に比べ多かった。

予察田における水稻の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	17.6	36.7	—	—	5
	ななつぼし	32.9	58.7	—	—	5
比布町	きらら397	94.1	70.9	98.3	72.7	10
	ななつぼし	96.2	—	98.1	—	—
北斗市	きらら397	49.6	35.6	—	46.4	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2) —は成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稻の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0.9	14.5	－	－	5
	ななつぼし	8.3	32.6	－	－	5
比布町	きらら397	15.1	15.7	25.2	13.4	10
	ななつぼし	16.0	－	20.4	－	10
北斗市	きらら397	5.6	9.8	20.4	13.8	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2) —は成熟期を迎えたため調査終了

2. 紋枯病 発生量 やや多

予察田における発生量は、岩見沢市では平年に比べ多く、北斗市では平年に比べ少なかった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	31.3	15.5	31.8	21.0	5
北斗市	きらら397	8.0	17.5	8.0	16.3	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. ニカメイガ 発生量 少

予察田における被害茎率は、長沼町で 1.7%（平年：8.7%）、北斗市では 0%（平年：1.3%）といずれも平年より低かった。

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや多

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町および比布町で平年より少なかった。北斗市では9月1半旬は平年より多かったが、それ以降平年並からやや少なくな推移した。

予察田における成虫のすくい取り頭数は、いずれの地点においても平年より多かった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	28	124.6	15	28.2	113	16.8	8	1.9	0	0.3	5	2.3
2半旬	29	60.2	6	14.5	3	7.8	4	0.4	—	0.1	8	2.0
3半旬	6	24.6	1	15.1	1	2.4	0	2.1	5	0.1	0	1.3
4半旬	0	10.8	0	11.7	2	1.8	—	0.0	—	0.5	5	0.5
5半旬	1	6.4	0	0.9	1	0.2	0	0.3	—	0.6	0	0.0
6半旬	2	2.8	—	0.1	0	0.1	0	0.0	—	—	—	0.0
平年数	10		10		10		4		10		10	

注) —: 未調査

B. 豆類

1. ベと病(大豆) 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年に比べやや少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	25.5	35.4	調査不能	40.8	10

2. アズキノメイガ(小豆) 発生量 やや多

予察ほにおける被害率は、平年と比較して訓子府町で高く、長沼町ではやや高く、芽室町では平年並だった。

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

地点	品種	被害株率(%)		被害率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	90.0	68.0	6.0	4.6	10
芽室町	きたのおとめ	38.0	37.7	2.1	1.9	10
訓子府町	きたのおとめ	74.0	47.7	6.1	2.3	10

C. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、長沼町および芽室町の「あまいぶき」、訓子府町の「リッカ」とともに平年に比べやや少なかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	リッカ	62.1	－	70.9	－	79.7	－	－
	あまいぶき	65.1	79.9	75.7	89.2	83.1	95.1	6
芽室町	リッカ	55.4	－	59.6	－	調査不能	－	－
	あまいぶき	69.6	78.5	80.4	90.5	調査不能	98.0	4
	スタウト	59.2	45.3	60.4	59.2	調査不能	74.5	8
訓子府町	リッカ	46.4	78.9	57.2	88.7	70.8	94.6	7

注1) —: 平年値なし

注2) 芽室町の9月6半旬は、葉腐病の多発により調査不能

2. ヨトウガ（第2回） 発生量 並

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、平年と比較して長沼町ではやや高かったが、芽室町ではやや低く、訓子府町では低かった。

9月3半旬の巡回調査において、被害株率は前年を上回る地域が多かったが、50%以上となったほ場はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	64.0	55.1	39	41.6	38	42.8
2半旬	68.0	60.1	38	45.9	38	47.5
3半旬	78.5	68.9	36	48.7	42	53.3
4半旬	73.0	71.9	38	53.0	44	62.5
5半旬	82.0	76.5	40	55.1	45	66.4
6半旬	88.0	79.6	42	55.8	48	66.9
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率

普及センター	地点数	9月3半旬		普及センター	地点数	9月3半旬	
		本年	前年			本年	前年
空知 南東部	1	18.0%	2.0%	網走 本所	10	24.4%	2.5%
石狩 本所	3	10.0%	7.3%	清里	3	4.0%	3.0%
後志 本所	3	4.7%	0%	網走	2	8.0%	12.0%
胆振 本所	4	12.3%	4.5%	美幌	5	1.2%	6.0%
東胆振	3	3.7%	0.5%	遠軽	9	14.8%	2.2%
上川 大雪	3	20.0%	19.3%	十勝 本所	4	7.5%	3.0%
士別	3	18.0%	10.0%	東部	6	10.3%	0.7%
名寄	2	0.5%	0%	東北部	4	13.0%	3.5%
				北部	3	2.3%	0%
				西部	3	0%	2.7%
				南部	3	5.3%	0.3%

D. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおけるだいこん（夏播き）の軟腐病の発生量は、平年に比べやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	2.9	4.8	3.2	6.3	4.2	6.4	10

2. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町および北斗市で平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	29	19.0	13	9.0
2半旬	9	14.2	15	12.0
3半旬	34	17.9	17	10.0
4半旬	58	30.0	16	14.0
5半旬	19	22.7	13	7.7
6半旬	18	23.6	6	12.9
平年数	10		10	

注) 10 株あたりの寄生幼虫数

3. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、平年と比較して長沼町、北斗市、芽室町でやや少なく、訓子府町ではやや多かった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では上旬は平年より多かったが、中旬以降は平年並だった。北斗市では平年よりやや少なかった。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺数と予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町		寄生幼虫数			
									長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	26	30.2	5	7.1	1	1.2	5	1.6	29	6.4	12	5.7
2半旬	14	28.9	5	6.5	0	0.4	1	1.0	13	5.1	7	13.3
3半旬	9	16.8	7	8.7	0	0.2	1	0.4	7	4.3	2	2.0
4半旬	12	17.7	3	6.3	0	0.4	1	1.2	0	3.6	2	5.0
5半旬	4	9.0	3	6.9	0	0.6	0	0.6	2	2.6	0	4.3
6半旬	5	10.1	2	8.1	0	0.3	0	0.7	1	2.0	1	3.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

注 2) 寄生幼虫数は 10 株あたりの値

E. りんご

1. 黒星病 発生量 多

長沼町の予察園（無防除）における発生量は、「昂林」で平年より多かった。余市町の予察園（慣行防除あり）では「つがる」および「王林」とともに発生が認められた。

9月3半旬の巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	52.3	45.3	35.7	22.3	7
	つがる	調査不能	39.6	調査不能	19.7	7
余市町B	つがる	1.0	—	—	—	10
余市町C	王林	8.0	—	—	—	—

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町（慣行防除あり）は9月2週目のデータ

注2) —は調査項目外または平年値なしを示す

注3) 長沼町の「つがる」は落葉が激しく調査不能

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		本年	前年
後志 北後志	4	2.3	0
胆振 本所	1	0	0
渡島 本所	1	0	0
留萌 南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）における「王林」の発生量は、平年に比べ少なかった。余市町の予察園C（慣行防除あり）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、感受性品種を調査対象にしている渡島、留萌地方で発生が認められたが、いずれも病葉率は前年より低かった。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	1.7	10.2	0.1	0.2	6
	王林(徒長枝)	0.7	6.5	0.1	0.1	6
余市町C	王林	0	—	—	—	—

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町（慣行防除あり）は9月4週目のデータ

注2) —は調査項目外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		本年	前年
後志 北後志	4	0	0
胆振 本所	1	0	7.0
渡島 本所	1	5.7	9.7
留萌 南留萌	1	21.6	34.0

3. モモシクイガ 発生量 並

長沼町の予察園において、産卵は認められなかった。予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較して余市町Bではやや多かったが、長沼町および余市町Aでは少なかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較して壮瞥町で多く、七飯町ではやや多かったが、岩見沢市、札幌市、伊達市、旭川市では平年並だった。

予察園における産卵数、被害果率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	産卵数		被害果率(%)		フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町				長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	86.6	100	96.7	15	29.7	0	19.8	19	21.2
2半旬	0	44.4	100	98.8	8	21.2	0.6	9.8	23.3	10.3
3半旬	0	17.4	100	97.9	1	8.4	1.2	4.3	4.6	4.7
4半旬	0	-	100	100.0	0	1.4	0	1.7	0	3.8
5半旬					3	0.1	2.0	0	0.4	0
6半旬					0	0.0	0	0	0.0	0
平年数	10		10		10		10		10	

注1)産卵数は100果あたり

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注3)-:未調査

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	本年	平年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	0.9	2	2.3	19.4	20.2	5	3.5	13.5	10.8	9.2	9.9
2半旬	0.7	1.0	0	0.7	12.6	12.7	2.9	2.3	6.2	7.5	5	5.8
3半旬	0.3	0.5	0	0.2	2.5	6.3	1.5	0.4	4.3	4.0	1	0.8
4半旬	0	0.1	0	0.0	2.5	4.9	1.2	0.2	3.2	1.3	1	0
5半旬	0	0.1	0	0.0	2	0.2	1	0.0	3.4	0.7	0	0
6半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.5	0	0
平年数	10		10		10		10		7		8	

注1)調査地点数は、岩見沢市2地点、その他は各1地点

4. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リングハダニは長沼町では平年より少なく、余市町AおよびBでは発生が認められなかった。ナミハダニは、いずれの地点においても発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	6.8	-	-	-	-	0	4.5	-	-	-	-
2半旬	1	0.7	0	2.8	0	9.0	0	0.6	0	3.9	0	6.6
3半旬	0	2.0	0	-	0	-	0	0.9	0	-	0	-
4半旬	0	0.3	0	2.7	0	13.5	0	0.0	0	3.9	0	2.9
5半旬	1	0.0	-	0.7	-	0	0	0.2	-	0	-	0
6半旬	0	0.0	0	0.1	0	2.9	0	0.0	0	1.7	0	5.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生虫数

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注3)-:未調査

5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率は、いずれの地点も平年と比較して低かった。予察園のフェロモントラップによる成虫誘殺数も、いずれの地点においても平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、すべての地点において平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	15	34.8	-	0.7	-	0.0	4	143.8	300.0	590.6	140.5	245.1
2半旬	17	36.2	0	3.0	0	1.0	2	100.0	333.4	687.0	142.7	300.2
3半旬	13	38.7	1	0.7	0	0.0	0	86.9	335.1	445.7	126.0	227.2
4半旬	27	43.4	0	3.1	0	1.2	3	35.9	141.5	397.3	46.0	104.7
5半旬	33	50.0	-	0.3	-	0.6	0	7.8	39.5	197.5	21.5	36.5
6半旬	33	51.5	0	2.7	0	1.0	0	2.8	32.6	49.4	20.2	22.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町 A、B の予察園は慣行防除あり

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2.5	15.2	4	23.7	3.6	19.5	202.9	589.9	0	67.3	256.4	186.1
2半旬	1.1	13.0	2.8	16.5	5.0	33.2	415.7	772.7	0	102.8	361.4	333.0
3半旬	0.4	5.9	1.5	4.5	3.3	17.8	395.1	548.2	0	138.8	275.3	399.0
4半旬	1	1.6	0	1	1.7	10.7	315.9	497.2	0.6	138.9	291.8	366.9
5半旬	0	0.6	0	0.3	0	10.7	53.8	200.7	1.1	66.9	62.9	280.3
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	2.9	22	129.4	2	34.1	45.6	112.1
平年数	10		10		10		10		7		10	

注) 調査地点数は、岩見沢市・増毛町:2 地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町:1 地点

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

